

# 会報 No.327



# キャリア・コンサルタント

2022年（令和4年）5月10日

【発行】 キャリア・コンサルタント協同組合

発行責任者：渡邊 健三

〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3

小川町北ビル 8F

Tel: 03-3256-4167 (代表)

直通電話：営業本部 03-6821-7544

：外国人材受入事業部

03-6826-7789

Fax: 03-3256-4168

E-mail：[事務局] jimukyoku@ccco.jp

[営業本部] eigyo@ccco.jp

URL：https://ccco.tokyo

http://ccco.jp

編集長：田中 努

編集者：影山和子 大野長壽

中野 忠 福田秀樹

---

## 1. キャリア・コンサルタント協同組合（CCK）の営業展開について

理事 営業担当 福田秀樹

（特別寄稿 18回）

## 2. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳 孝彦

（記憶に残る西部劇 その6）

## 3. 「パワー・オブ・ザ・ドッグ The Power of the Dog 2021」

元日立ビルエンジニアリング 常務 小泉幾多郎

## 4. 事務局だより

事務局

一粒万倍

---

## 1. キャリア・コンサルタント協同組合（CCK） の営業展開について

理事 営業担当 福田 秀樹

CCKでは、外国人技能実習生や特定技能による中小企業の人材不足の支援、IoT、AI等、スキルの高いITの専門家によるデジタル化やPマーク認証取得のコンサルティング、テレワークの導入やオンラインツールの活用等の支援、中小企業診断士、社会保険労務士、税理士、行政書士等による中小企業の経営力強化や生産性向上の支援を行ってきました。

また、新規事業立ち上げ等に関する事業計画や資金調達、大手流通企業のネットワーク、産学連携等、各方面の専門家がCCKのフェローになっていただいています。

ここ数年は官公庁入札案件を落札する確率が高くなっており、着実に実績を上げています。さらに案件ごとに専門企業と連携を組むことで支援業務の範囲が広がり、入札業務の遂行能力が確実に上がっています。

最近の官公庁入札案件の傾向を見てみると、中小企業の海外進出を支援サポートする内容が増えています。これは、成長著しい海外市場に向けたビジネス展開をする中小企業に対して官公庁が積極的に後押をする、というメッセージとも言えます。

CCKでも東南アジアを中心とした海外のネットワークを充実させており、官公庁がサポートできないような、きめの細かい支援を得意としており、日本の競争力の高い分野でグローバルなビジネスモデルの実現に向け支援を行っています。

インターネットの情報過多により、玉石混交、何を信じてよいか分からなくなってしまい、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代だからこそ、正しい情報の収集と正しい判断が経営に求められています。

CCKは、経営の専門家集団として今後も中小企業の良き相談相手となり、課題解決に向け取組んでいきたいと考えています。

(特別寄稿 第18回)

## 2. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳孝彦

世の中の関心がコロナからウクライナへと移り、報道も少なくなってきましたが、政府は事実上のオール解禁（それを大ぴらに口には出来ませんが）にして経済を盛り上げることしか考えていないように思えます。

新規感染者数を見ていると、オミクロン株による第6波がピークアウトしているかには見えますが、第7波の兆しを思わせる“宝永山”が見られます。亜株 BA.2 によるとされていましたが、さらに BA.2.12.1 という亜株が出来、BA.2 を押しつけて増え始めているようです。BA.1 と BA.2 が混合したような XE 型が危ないという報道がありましたが、それに加えてインドで発生しニューヨークで増え始めた亜株（日・英での報告はない）も心配です。デルタ株と共通する変異を持っているため、オミクロンの強い感染力とデルタの病原性を兼ね備えると厄介なことになります。

しかもこれらの変異株に、mRNA ワクチンが有効ではないというデータが出てきました。矢張り罹らないように予防することしかありません。第6波が始まって、感染してしまったという話を、身近に聞くことが多くなってきましたが、ニュースにもなりません。検査体制も不十分なままですので、不顕性感染（PCR 陽性無症状者）も含めると、かなり高率に感染が広がったと考えられます。今、住民を対象として抗体をどの程度持っているかの大規模調査をすべき時ではないかと考えますが、そういう調査、計画は聞こえてきません。あるいは社会的免疫といわれる7割に近づいているかもしれません。

感染した状況を見ると、やはり会食が最も危険のようで、しかも二次会的に三密状態になることがヤバイようです。蔓延防止対策が解除されても十分気を付ける必要があります。差しつ差されつのない、アクリル板越しの会食なら、人数を増やしても可いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは当初飛沫感染と言われましたが、現在では空気感染とされています。従って感染源が分かり難いのも事実です。換気です。時は新緑の候、新鮮な空気を求めて、山行、トレッキング、あるいはゴルフなどのアウトドアスポーツは、本来殆ど問題ないと思います。

(2022年4月29日 記)

(記憶に残る西部劇 その6)

### 3. 「パワー・オブ・ザ・ドッグ The Power of the Dog 2021」

元日立ビルエンジニアリング 常務 小泉幾多郎

3月28日第94回米アカデミー賞は、日本映画「ドライブ・マイ・カー」が国際映画長編映画賞を受賞し話題となったが、作品賞は西部劇「パワー・オブ・ザ・ドッグ」が最有力だった。受賞すれば「シマロン 1931」「ダンス・ウィズ・ウルブス 1990」「許されざる者 1992」に次ぐ4番目の西部劇受賞となったのだが、人間の心を掘り下げる深さはあったが、後味の悪さが嫌われたか、エーン・カンピオンの監督賞を得たに留まった。

特筆したいのは、今回の作品賞「コーダあいのうた」がアップル、「パワー・オブ・ザ・ドッグ」がネットフリックスというネットストリーミングという動画配信によるものだったということ。映画館上映にならない映画が増えるということは映画館の存在をも揺るがしかねないという時代になってきたということ。昨年12月9日この映画を観ようとした時点で、上映していたのは、東京横浜で、シネ・リーブル池袋1件のみ。帰りに売店でプログラムを買おうとしたら、なしという。映画館上映を考慮していなかったことは、後で判ったことだ。

西部劇とは言うものの「ピアノレッスン」のジェシー・カンピオン監督・脚本作品ということからも判断できるように、アクション要素一切なし、愛憎渦巻く人間模様とその果てという心理スリラーとでもいうべきか。英・豪・米・加・新NZ共同制作で舞台は1920年代西部開拓時代の遺風が色濃く漂うモンタナの地だがロケは、ニュージーランドで行われた。題名は旧約聖書詩編の一説「私の最愛の人を邪悪な犬の力から救い出してください」から付けたとのことだ。

牧場を営む対照的な性格の兄弟が主人公で、兄フィルは、TV「シャーロック」で新時代のシャーロック・ホームズを演じたベネディクト・カンバーバッチが扮し、威圧的で独善的な面はあるが、働き者で有能なリーダーであり、牧場で働く者は誰もが、フィルに敬意を示す。弟ジョージ（ジュシー・プレモンズ）は温厚だが気弱な性格。

ある日、牛の移動に際し、牧場の使用人一同と未亡人ローズ（キルスティン・タンスト）とその息子ピーター（コティ・スミット＝マクフィー）が経営するレストランで食事をすることになる。ピーターは外科医を志すも、華奢で男らしさとは無縁、喧嘩等出来そうもなくカウボーイたちからはお嬢さんと馬鹿にされる。そんな中ジョージとローズはあるキッカケから親密になり結婚することになる。このように兄、弟その妻、その息子と性格の異なる4人の関係は濃密・濃厚な人間のドラマを生む素地を作っていくのだった。兄は溢れるカリスマ性、タフな精神、女々しいものへの嫌悪から、義妹になるローズを、連れ子のピーターをいじめぬく。

ところがある日からフィルとピーターが親密になっていく。フィルの知られざる秘密ゲイ的嗜好がピーターによって明かされてきたのだ。最後は、材木の下にいる兎を獲ろうとして手に怪我をしたフィルにピーターが黴菌の付いた生皮を送り、フィルはその黴菌の感染がもとで、炭疽菌で死に至るのだった。フィルの野蛮なる日常に対し、連れ子ピーターの蜜やかな復讐の計略が淡々と進められたのだが、実際問題としてフィルの行為が死を与える程の悪行であるのか？と考えると疑問点も残る。

いずれにしても、善玉悪玉の単純な西部劇を観てきた年寄りにとって、このような美しく広大な風景の中に描かれる人間の負の感情、嫉妬、怖れ、怒り、嫌悪といった緊張感が漂い、暴かれる男らしさの正体、役者たちのアンサンブルの見事な効果等濃密な人間ドラマに見ていて息苦しくなったことも事実だ。

（つづく）

## 事務局だより

### 事務局

●本年3月末日は組合の第27期の決算月となりました。売上に相当する「事業収入」は初めて一億を超えました。外国人材事業はコロナ禍で停滞しましたが、営業本部の事業がそれを補いました。また税引き利益も約80万円計上できそうです。27期の通常総会は5月27日（金）に組合会議室で午後3時より開催予定になっています。総会後の「懇親会」は午後5時より「ひなたガーデン」で開催します。費用は協同組合で負担しますので、組合員・賛助会員の出席をお待ちしています。

●今月5月末日をもって事務局の影山和子さんが事務局を卒業することになりました。後任として山本奈美さんが職員として後を引き継ぐことになりました。山本さんは岐阜事務所の後藤さんの紹介です。なお、影山さんは賛助会員としてキャリア・コンサルタント協同組合での活動は続けられます。

●個人の組合員に支給する「組合手数料」「事務局業務費」と雇用者に支払う報酬は4月の支給分から所得税の源泉徴収をすることになりました。それにより年末調整は各人の責任で行うこととなります。尚、法人は全額支給します。

#### ●5月の行事等の予定

- 10日（火）運営会議（10：30）
- 11日（水）営業担当者会議（10：30）  
30周年記念事業検討委員会（13：30）
- 17日（火）理事会（13：00）
- 25日（水）営業担当者会議（10：30）
- 27日（金）第27期通常総会（15：00・組合会議室）  
懇親会（17：00・ひなたガーデン）

#### ●6月の行事等の予定

- 2日（木）BCセミナー（10：00）
- 6日（月）BCセミナー（10：00）
- 8日（水）営業担当者会議（10：30）  
貿易実務者養成講習会（13：00）
- 9日（木）BCセミナー（10：00）
- 13日（月）BCセミナー（10：00）
- 14日（火）運営会議（10：30）
- 16日（木）BCセミナー（10：00）
- 20日（月）BCセミナー（10：00）
- 21日（火）理事会（13：00）・研修の集い（講師中野忠氏）（16：00）
- 22日（水）営業担当者会議（10：30）
- 23日（木）BCセミナー（10：00）
- 27日（月）BCセミナー（10：00）

## 一粒万倍

▼3年ぶりに新型コロナによる行動制限のない、今年のゴールデンウィークは行動の自由が緩和された。新幹線も満席、高速道路も渋滞で、観光地も人出で賑わったようである。今年は連休も大型であり2日（月）を休めば7日間の、6日（金）を加えれば10日間の連休になった。コロナからの解放感を久しぶりに味わった人も多かったようだ。

▼ロシアのウクライナへの侵攻で感ぜられるのは、地下室のシェルターの頑丈さに感心させられた。それは先の太平洋戦争でB29爆撃機による本土の空襲での、防空壕のチャチなことを思い出した。庭先を少し掘り下げ掘っ立て小屋を作って避難をしていた。これは焼夷弾での爆撃でひとたまりもなく炎上してしまった。その後、横穴の防空壕になったが、ただ横穴を掘っただけで、換気も十分ではなく湿気も多く出入口は一つであり、ひと時を過ごすのがやっとの状態であった。しかしウクライナでの地下室での生活は3週間を越しても救出される状況であった。現在の日本では、シェルターはどのくらい作られているのか？地下鉄も地下の浅いところを走っているのが多い。

▼私的に申し上げますと、憲法論議に加担するわけではないが、今回のロシアによるウクライナ侵攻に際し、憲法の9条が足かせになっているようだ。ウクライナに対する支援では、憲法9条の拡大解釈ではすまされず、辻褄合わせの理由をつけている。自衛隊についても日本共産党も存在を認めており、攻撃に対する反撃（防衛）を認めている。反撃は攻撃に変化するのとは必然である。

**編集後記：**\*毎年5月は原稿が少なく休刊したこともありましたが、今年もページ数が減りましたが発行することにしました。これからも皆様の寄稿をお待ちしています。\*このところのTVやラジオのニュースは「ウクライナへのロシア軍の侵攻」「ウトロの知床観光船沈没」「群馬県での行方不明の小学生」が連日放送されています。いずれも人命に関するもので、国民全員が注目しています。事件のない平和で穏やかな生活を望んでいます。